

園の取り組み事例

三宅町立三宅幼稚園(奈良県・公営)

細やかな家庭支援と 発信力の強化で 子どもの育ちと保護者を支える

取り組みの ポイント

日常の家庭支援や会話を通して関係性を深め、「一緒に子育てをしていきましょう」というメッセージを伝えて、保護者の精神的な支えとなることを心がける。

ドキュメンテーションや動画配信を通して、日々の保育や行事のねらい、子どもの育ちなどを共有し、保護者と視線を合わせる。

保護者の悩みや不安に寄り添いながら、共に子育てをする

町ぐるみで子育てをする一体感の 一方で、距離感が近いゆえの難しさも

野球のグローブの生産地である奈良県磯城郡三宅町は県北西部に位置し、人口約6,500人、面積約4km²という自治体です(2023年10月時点)。三宅町立三宅幼稚園は町にある唯一の認定こども園。町にはほかに0～2歳児を対象とした小規模な保育施設はありますが、町内の子どもの多くが三宅幼稚園に通います。町の小学校も1校だけのため、子どもたちはほぼ同じ顔ぶれで育っていきます。

三宅町健康こども局の局長で、2023年度は同園の園長を兼任する植村恵美先生は、保護者を取り巻く状況について次のように説明します。

「子どもの数が少ないこともあり、行政は妊娠中から個々の保護者の子育てを支えています。出産後は健康こども課の保健師、その後入園児の保護者には本園を始めとした保育施設、また、未就園児の保護者には町の子育て包括支援センターが、中心となってサポートします。そのように町全体

お話しくださった先生方



園長
植村恵美先生



家庭支援担当
大濱幸枝先生

で一体感をもった子育てができる半面、人間関係が固定化しやすく、いったん関係がこじれると修復に時間がかかるといった難しさもあります」

そうした状況を踏まえ、かねてより同園では保護者一人ひとりと向き合い、よい関係をつくることを心がけてきました。

「家庭支援」専任の保育者が 担任とタッグを組んでサポート

同園で保護者を支えるしくみの1つが、家庭支援推進保育士の存在です。それぞれの保護者が抱

